

A-89 食餌中の糖質と脂肪の血漿脂質に及ぼす影響

日本女大家政

野崎幸久 ○山本初子

目的 食餌中の糖質および脂肪の種類と構成割合を変えて血漿脂質に及ぼす影響を検討した。

方法 ウィスター系雄ラットを用い、I. とうもろこしでんぷん-大豆油, II. 蔗糖-大豆油, III. とうもろこしでんぷん-ラードの3種類の組合せで糖質と脂肪の割合を変えた飼料で4週飼育後、血漿コレステロール (Zak法), トリグリセライド (Carlson法) および肝総脂肪の測定を行なった。

結果 実験Iで大豆油量を2, 5, 8, 15および20%と変化させるとコレステロールは2%で最も高く、20%で最も低く、トリグリセライドは著変なく、肝総脂肪は飼料中の脂肪量の増加につれて高くなる傾向がみられた。実験IIで、大豆油量を2, 5および20%と変えると20%のときコレステロール・トリグリセライドともに最低を示し、肝総脂肪には変化がみられなかった。実験IIIでは、ラード量を2, 5および20%と変えるとコレステロール・トリグリセライドともに飼料中の脂肪量による差はみられなかった。肝総脂肪も同様であった。

但し、飼料中の脂肪の同一含量のものと比較すると、コレステロールととうもろこしでんぷん-大豆油群に対し、蔗糖-大豆油およびとうもろこしでんぷん-ラード群ともに高値を示した。